

## 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」について(第21報)

### ○余震活動等の状況

活発な余震活動が続いています。余震は、岩手県沖から茨城県沖の長さ約500km、幅約200kmの広い範囲で発生しています。昨日(17日12時)から本日(18日12時)までにM6.0以上の余震は発生していません。これまでに発生した余震は、M7.0以上は3回、M6.0以上は49回、M5.0以上は262回です。

(注：以上の数値は、18日12時までの速報値で、後日の調査で変更になることがあります。)

### ○余震の見通しについて

余震活動は非常に活発です。広い範囲で余震が発生しているため、同じ規模の余震であっても、発生する場所により各地での震度は異なります。

今後も、岩手県沖から茨城県沖の領域では大きな余震が時々発生し、震源地に近いところでは、最大震度5弱以上となる可能性があります。場合によっては、震度6弱～6強となる余震が発生する可能性もありますので警戒して下さい。

### ○防災上の留意事項

揺れの強かった地域では、土砂災害や家屋の倒壊などの危険性が高まっていますので、余震による強い揺れに引き続き警戒してください。

復旧活動など屋外で行動する場合は、余震の揺れによって二次災害のおそれがありますので、十分に安全を確認して行動するよう心がけてください。

また、大きな余震が発生すると津波が発生する可能性があります。海岸で強い揺れを感じた場合、また、揺れを感じなくても津波警報や津波注意報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ高台等の安全な場所に避難してください。

### (参考) その他の地域の地震活動等

余震が発生している領域を除き、地震活動を全国的に見ると、今回の地震以降、M6.0以上は3回、M5.0以上は8回発生し、小さな地震が増加した地域も認められますが、現在、特に活発化した状況は見られていません。また、火山地域においても、噴火の兆候となる火山性微動や低周波地震は特段観測されていません。

(添付資料：震度回数表、余震回数比較図、余震発生状況、参考資料)

本件に関する問い合わせ先

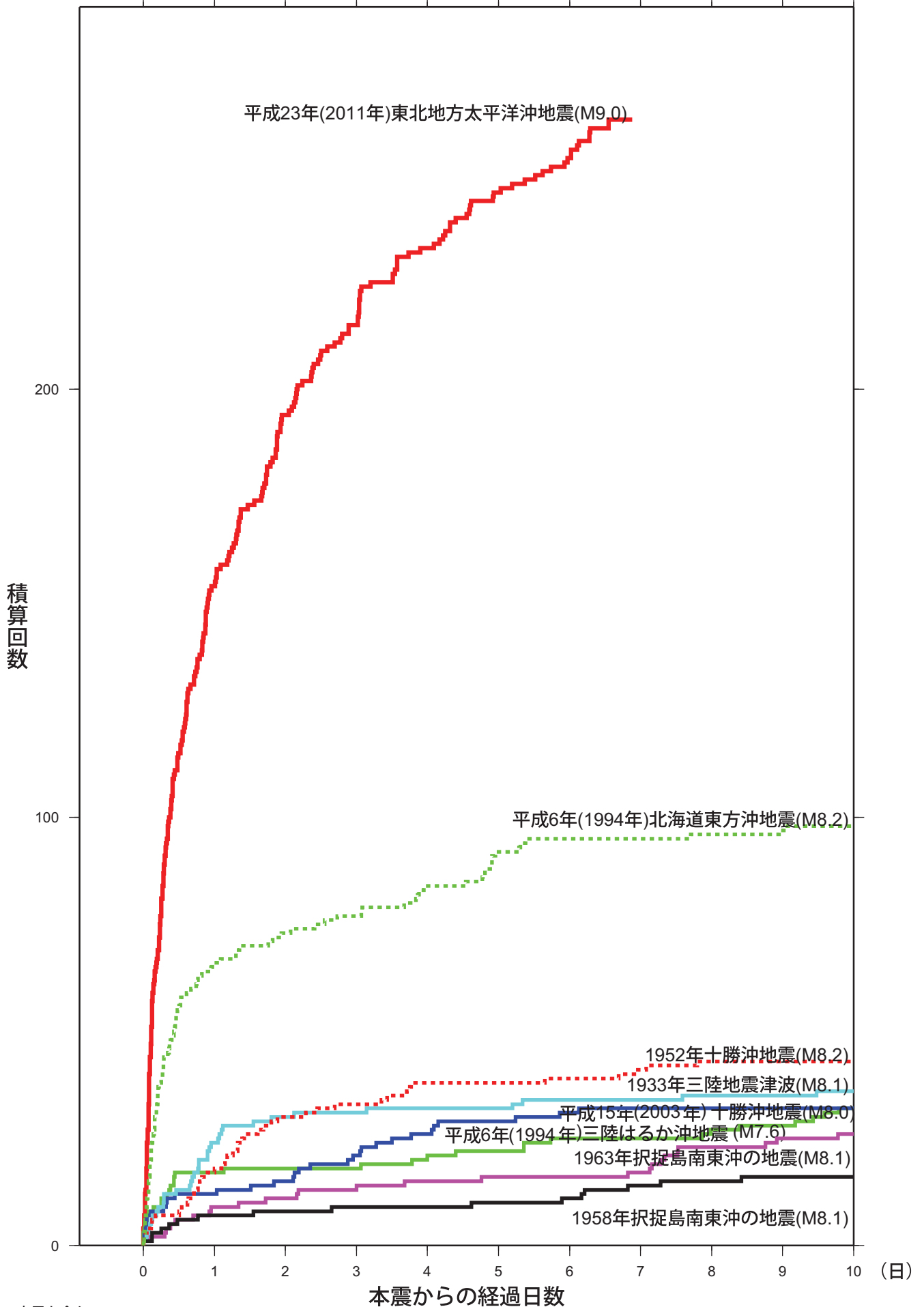
気象庁地震火山部 地震予知情報課 (内線 4721、4724)

地震津波監視課 (内線 4559)



# 海域で発生した主な地震の余震回数比較 (※本震を含む) (マグニチュード5.0以上)

2011年03月18日12時00分現在



※本震を含む。

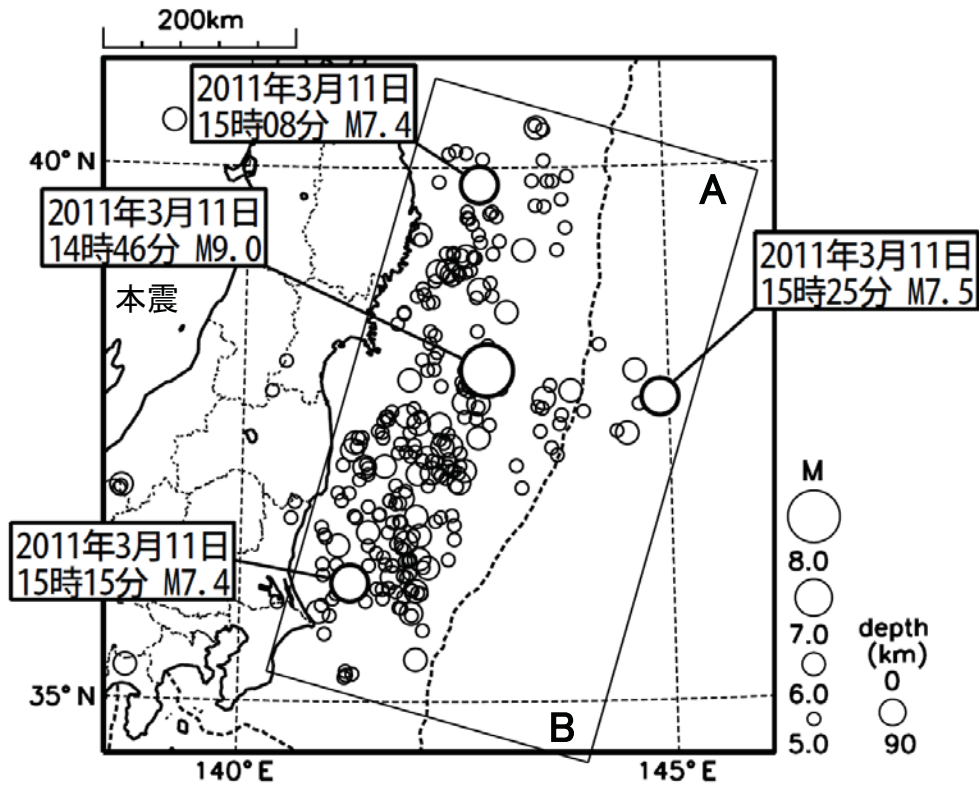
※この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがあります。

気象庁作成

# 平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震 余震の発生状況

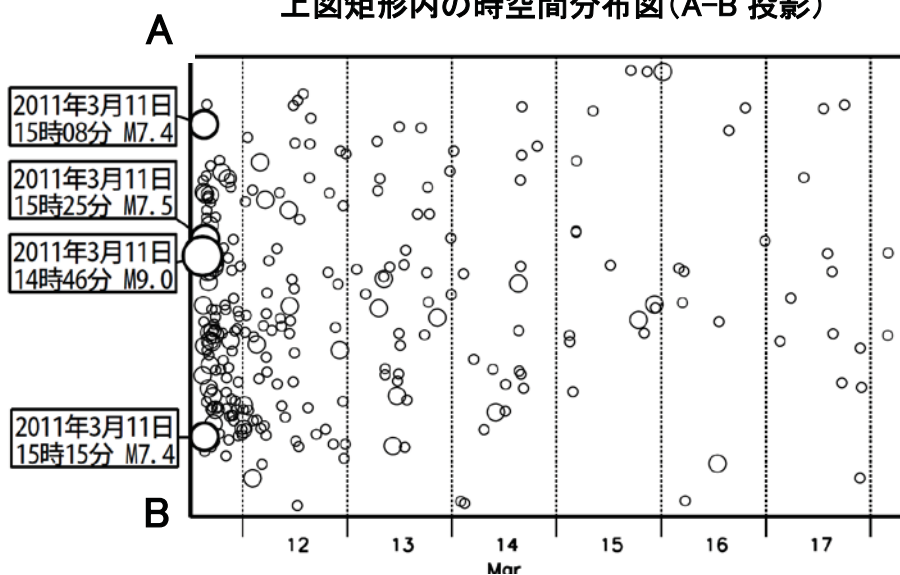
## 震央分布図

(2011 年 3 月 11 日 12 時 00 分～18 日 09 時 00 分、深さ 90km 以浅、 $M \geq 5.0$ )



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。  
M7.0 以上の地震に吹き出しをつけている。

## 上図矩形内の時空間分布図(A-B 投影)



横軸は時間、縦軸は上図の A-B の範囲を示す。  
発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示した。

## (参考)余震発生確率 (平成23年3月18日15時現在での推定)

現在までの余震発生状況から推定した余震発生確率は以下のとおりです。

	最大震度5強以上
3月18日15時から3日間以内	30%
3月21日15時から3日間以内	20%

\* 地盤の悪いところではこれよりも震度が大きくなる場合があります。

注 仮に余震が内陸や沿岸部で発生した場合、これよりも震度が大きくなる場合があります

余震発生確率は地震活動の活発さの目安ですが、これは現在までの余震発生状況から推定したもので、今後の活動の変化によって変わる可能性があります。

なお、上記の数値はM7.0以上の余震が発生する可能性をもとに計算したのですが、「マグニチュード7以上」の表現ではわかりにくいとの指摘がありますので、最大震度による表現にしております。

- 余震発生確率を算出するにあたっての前提

これまでの地震活動の推移から、本震—余震型であることを前提として、余震発生確率を算出しています。

- 本震—余震型の特徴

本震—余震型の地震活動では、最初に最も規模の大きい本震が発生し、それに続いて余震が多数発生します。余震の発生数は大局的には時間とともに徐々に減少していきます。ただし、余震の減少の仕方は様々で、単調に減少していくこともあります。場合によっては減少していく過程で増減を繰り返すこともあります。

- 余震発生確率の意味

ある大きさの余震に注目した場合に、その大きさの余震が、ある時点からある期間内に発生する確率を余震発生確率と言います。例えば、マグニチュード7.0以上の余震がある時点から3日間以内に発生する確率が10%である場合、3日間以内にマグニチュード7.0以上の地震が必ず発生するとは評価されませんが、全く発生するおそれはないという評価でもありません。同様な地震活動の場合、10回発表したうちの1回は3日間以内にマグニチュード7.0以上の余震が発生するという意味です。

なお、余震発生確率10%という確率は低いように思えますが、平常時、東北地方から関東地方の太平洋沿岸および沖合の地域で、マグニチュード(M)7.0以上の地震が3日以内に発生する確率は0.2%程度です。

問い合わせ先: 気象庁地震火山部地震予知情報課 内線 4562

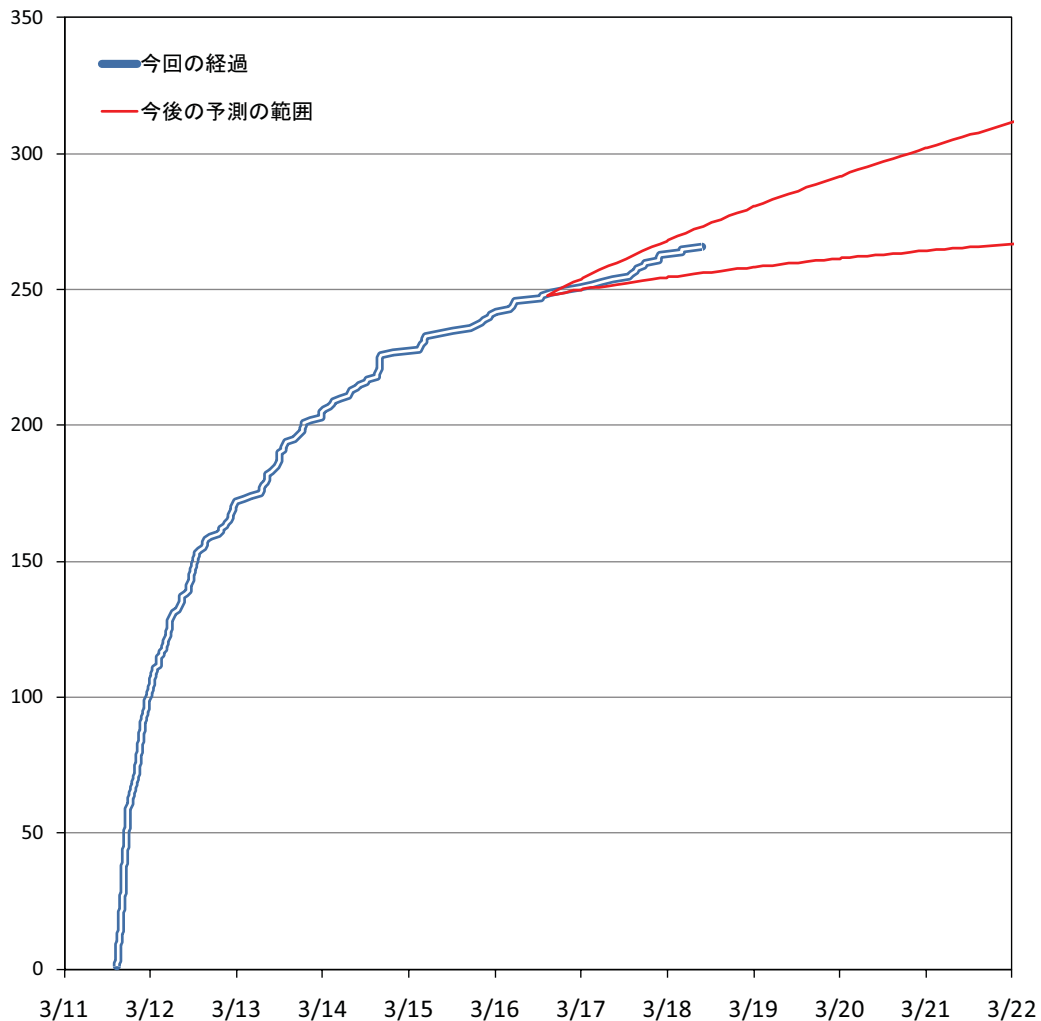
(参考)余震回数予測 (平成 23 日 3 月 18 日 12 時現在での推定)

現在までの余震発生状況から推定した余震回数予測は以下のとおりです。

	M5.0 以上の余震回数
3 月 18 日 00 時から 21 日 24 時までの4日間	数回~50回 程度 (平均 20~30 回程度)

上記の予測回数は、現在までの余震発生状況から推定したもので、今後の活動の変化によって変わる可能性があります。

M $\geq$ 5.0の  
余震回数



余震回数予測図 (M $\geq$ 5.0)

予測について

本震-余震型の地震活動では、本震直後に多数の余震が発生し、その後、増減を繰り返しながらも、大局的には、時間とともにほぼ同じ割合で余震は減っていきます。

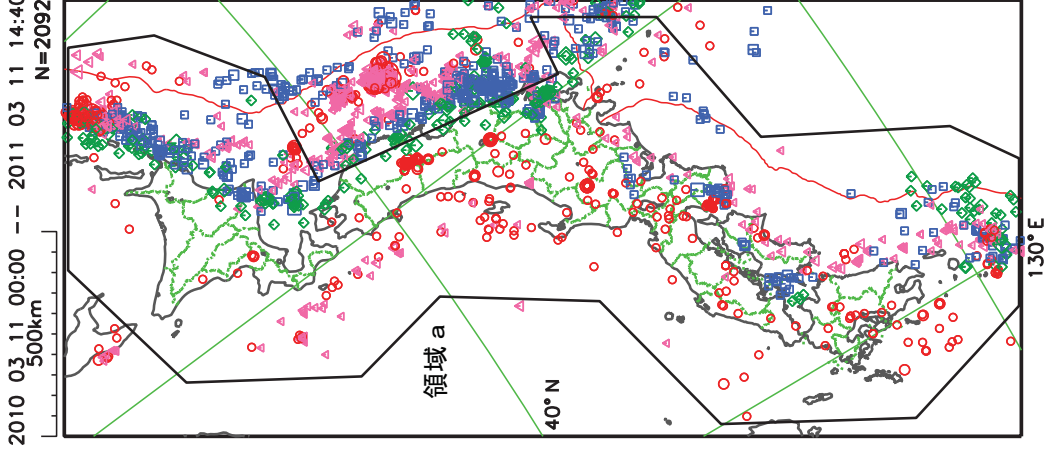
余震の時間的な推移については、現在の減衰状況が今後も続くと仮定し、幅をもって予測回数を示しています。その予測値の範囲に入る確率は90%です。

この予測は、地震調査委員会によって取りまとめられた「余震活動の予測手法」報告書に基づく。

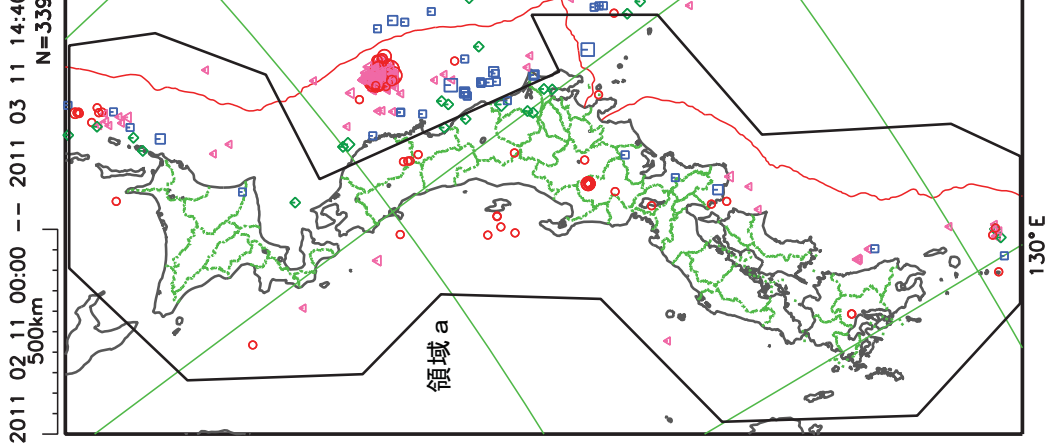
# 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」

本震前後の地震活動状況（マグニチュード3.0以上）

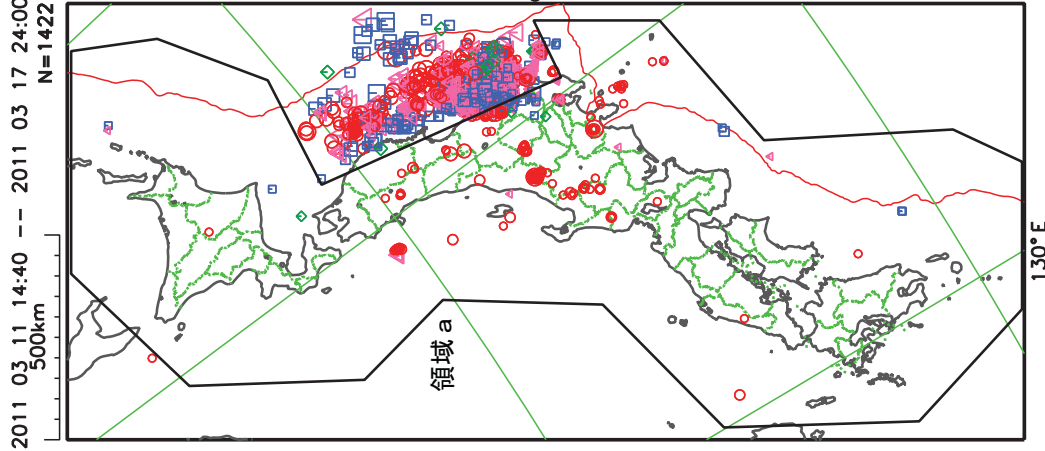
本震前1年間



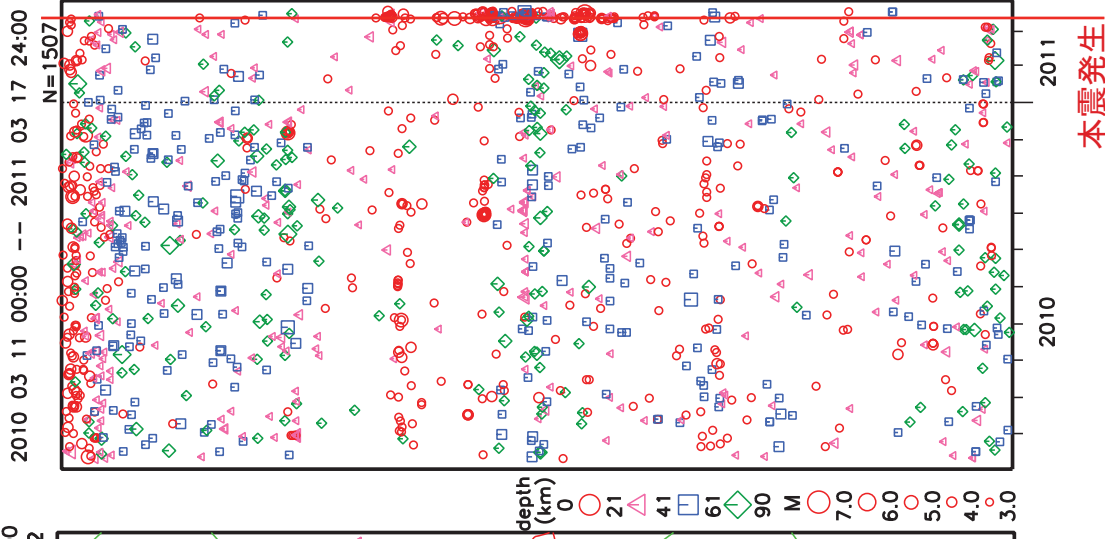
本震前1ヶ月間



本震発生後7日間



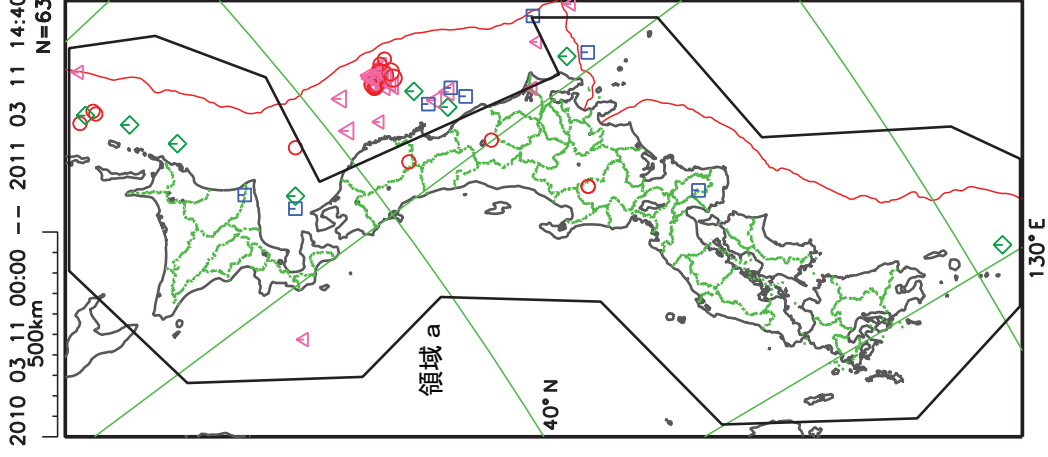
領域 a 内の時空間分布図



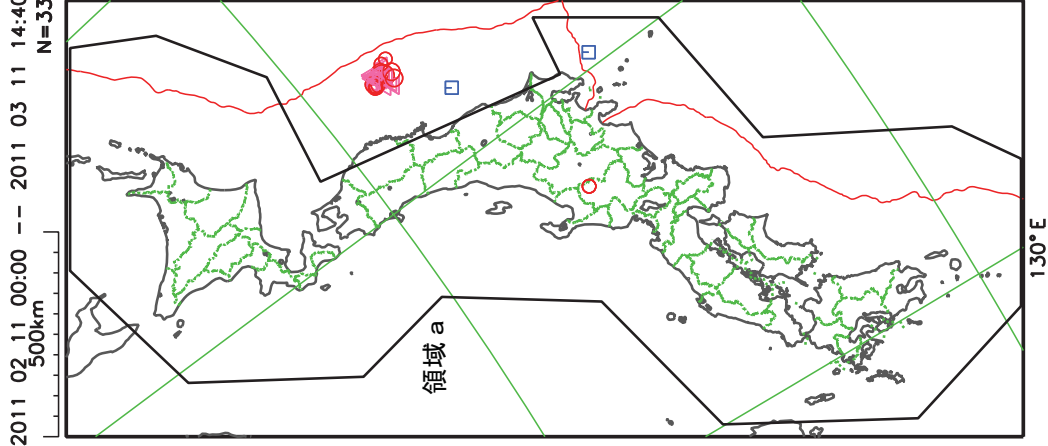
# 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」

## 本震前後の地震活動状況（マグニチュード5.0以上）

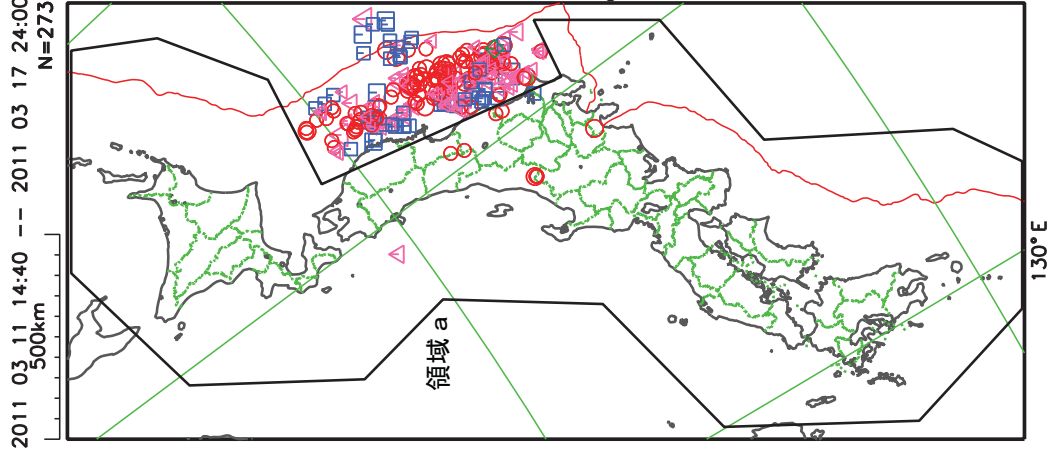
本震前1年間



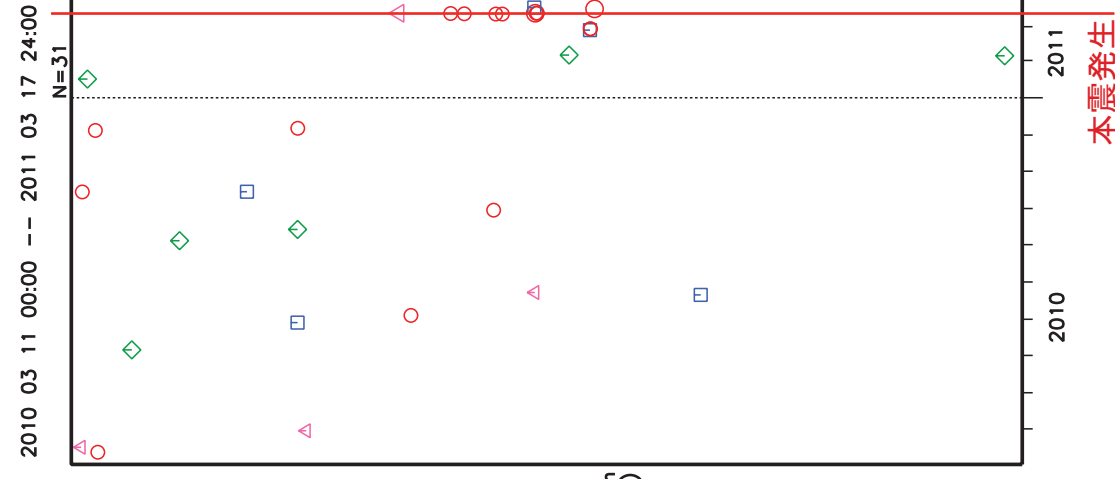
本震前1ヶ月間



本震発生後7日間



領域 a 内の時空間分布図





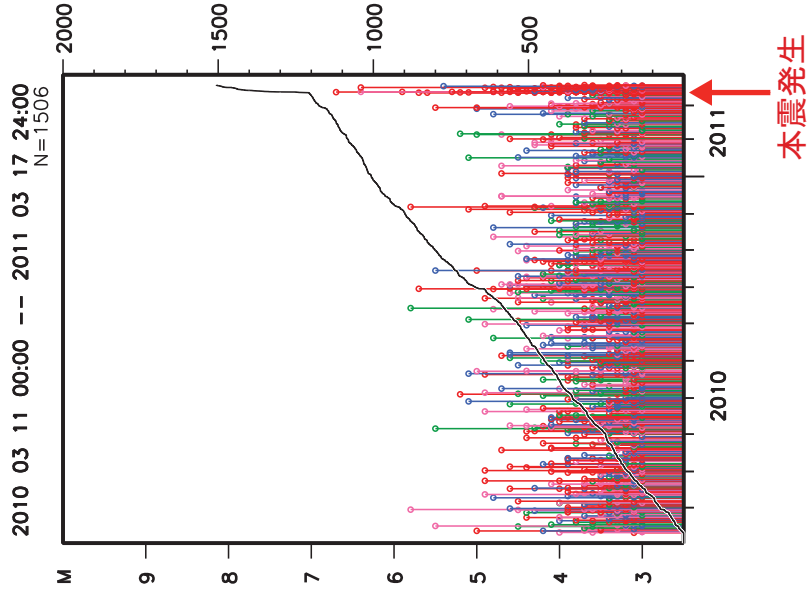


# 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」

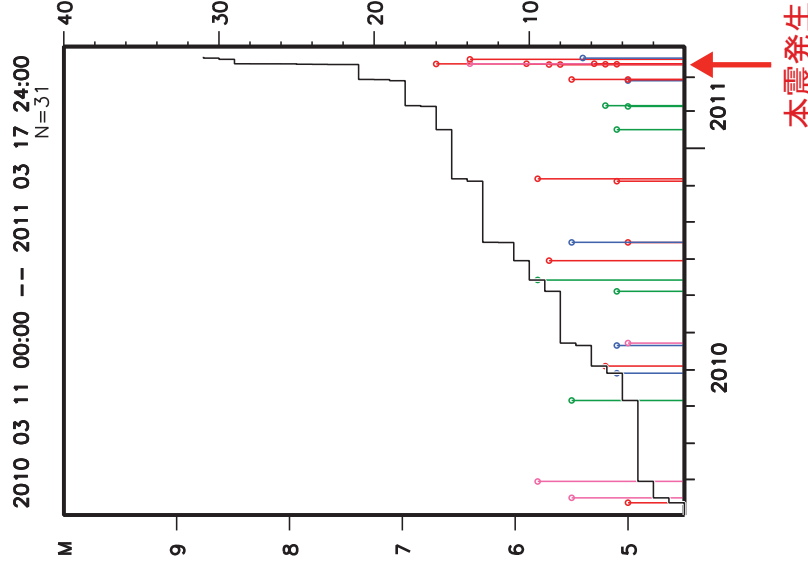
## 本震前後の地震活動状況

### 【領域 a 内の地震活動経過図と回数積算図】

マグニチュード3.0以上



マグニチュード5.0以上



マグニチュード6.0以上

